

# 動物の本 ~ほのぼのから社会派まで~

**「しばいぬ」**  
岩合光昭/写真  
平凡社  
645イ  
篠崎ほか所蔵




日本が誇る犬、柴犬の魅力がぎゅぎゅっと詰め込まれた写真集。優しい顔立ちや、丸まった尾のかわいさは言わずもがな。凛とした立ち姿からは気高ささえ感じられます。つぶらな瞳にとことん癒されてください！

**「アカネちゃんとお客さんのパパ」**  
松谷みよ子著  
講談社  
Fマ  
中央ほか所蔵



子どもの頃に読み、大人になって読み返すとさらにその本の凄さに気付く。松谷作品のなかでも「モモちゃんシリーズ」はまさにそんな本だと思います。お客さんとなったパパおおかみとアカネちゃんの再会するところは、大人の方ほど読んでほしい場面です。

**「猫語の教科書」**  
ポール・ギャリコ著  
筑摩書房  
B934キ  
篠崎ほか所蔵



素敵な猫ライフを送るための方法を、猫が自身の経験を踏まえて教えてくれます。つまり猫が書いた猫のための本。人間を魅了してうまくしつけるために可愛らしい仕種や鳴き声を練習します。もしかしてうちの猫も……？写真も愛らしい一冊です。

**「ガリバー旅行記」**  
ジョンサン・スウィフト著  
角川書店  
B933ス  
篠崎ほか所蔵




第4章の冒険先は「馬の国」だという、馬好きには見逃せない情報を得て読破。その国の高徳な馬たちを通して、我々“ヒト”の高慢さをこれでもかと皮肉たっぷりにあぶり出す。こどもに人気の冒険譚の本質が、こなにも奥深い人間批判書だったことに驚かす。

**「雪の練習生」**  
多和田葉子著  
新潮社  
Fタ  
篠崎ほか所蔵



ホッキョクグマが会議に出席し、自伝をしたため、人生(?)に苦悩する……。クマとヒト、夢と現実の境目を曖昧にしながら、物語は時にユーモラスに、時に甘美に進行してゆきます。読後は浮遊感のような、不思議な余韻が残る一冊です。

**「動物農場」**  
ジョージ・オーウェル作  
岩波書店  
B933オ  
篠崎ほか所蔵



革命を起こし、農場主を追放した動物達。当初は平等な農場経営を行っていたが、リーダーの豚が独裁体制をし始める……。ロシア革命とその後のソ連を風刺した作品。読後、衝撃を受けて政治に無関心ではいけないと痛感しました。

**「オズの魔法使い」**  
ライマン・フランク・ボーム著  
早川書房  
B933ハ  
篠崎ほか所蔵



本当は強いのに自信がなくて「自分は弱い」と思い込んでいる臆病ライオン。ドロシーやオズなど様々な人との出会いによって本当の自分の姿に気づいていく姿は、やっぱり今読み返しても素敵なお話です。もちろん木こりとカカンもね！

**「山月記」**  
（「李陵・山月記」所収）  
中島敦著  
新潮社  
BFナ  
篠崎ほか所蔵




中国古典を題材にとった有名な物語です。学校の授業で習った方も多いと思いますが、年齢を重ね、改めて読み返してみると、人生の儚さや苦悩など、当時はわからなかった深い部分が再発見できます。漢文調の日本語が素晴らしいです。

**「ステーキ」**  
マーク・ジャツカー著  
中央公論新社  
648シ  
篠崎ほか所蔵




著者は「最高のステーキ」を食べるために、イタリア、アルゼンチン、日本など世界7ヶ国を巡り、極上の牛肉を探求します。しかも取材だけでは飽き足らず、なんと肉牛を飼育までしてみる（そして食べます！）、その徹底ぶり脱帽です。

**「ステーキ！」**  
マーク・ジャツカー著  
中央公論新社  
648シ  
篠崎ほか所蔵



著者は「最高のステーキ」を食べるために、イタリア、アルゼンチン、日本など世界7ヶ国を巡り、極上の牛肉を探求します。しかも取材だけでは飽き足らず、なんと肉牛を飼育までしてみる（そして食べます！）、その徹底ぶり脱帽です。

**「ドリームボックス」**  
小林照幸著  
毎日新聞社  
645コ  
篠崎ほか所蔵



副題は「殺されてゆくペットたち」。命の大切さや人を思いやる心は幼い頃から何度も教わってきたはずなのに、それは人に対してだけではないはずなのに、人間の自分勝手に自己中心的な言い分に怒りと悲しみを感じました。人と動物の命の重さは違うのでしょうか？

**「未確認動物UMA大全」**  
並木伸一郎著  
学研パブリッシング  
480ナ  
篠崎ほか所蔵



UMA（未確認動物）本の決定版！ ネッシー、チュパカブラ、キジムナ……。世界中のUMAの目撃情報や写真・図版が紹介されており、さらにその正体を考察しています。UMAの数の多さに圧倒されました。

## そのメロディに魅せられて♪

## CD「ファンが選んだ美空ひばり映画主題歌集 ~東映編~」

美空ひばり F2S04752 篠崎ほか所蔵

戦後すぐから60年代の初頭まで、東映で量産された明朗時代劇なるジャンルをご存知だろうか。その名の通り明るくポップな時代劇で、人の活き活きとした動きに思わず魅入られる、これぞ活劇！といった映画なのだ。その中で燦然と輝く一人が偉大な歌手、美空ひばりだ。歌は勿論

のこと、ジェンダーの壁を軽々飛び越える演技は実にキューート！ ミュージカル仕立ての作品も多く、そこで歌われる歌はなかなか斬新で、楽しいのだが、今回紹介するCDでは、「ロカビリー剣法」などでその楽しさを味わうことができる。歌唱の幅広さも見事なおススメの一枚だ。

**「りすぼん」**  
松原卓二/写真・文  
集英社  
489マ  
篠崎ほか所蔵



もうこの表紙を見ただけで幸せな気分になります。富士山麓にある著者の自宅・ペランダに遊びに来るニホンリスたち。著者の素朴で温かい文章からリスへの深い愛情が感じられます。とにかく可愛い！のひと言に尽きます。

**「手袋を買いに」**  
（「新美南吉童話集」所収）  
新美南吉著  
角川春樹事務所  
BFニ  
篠崎ほか所蔵



有名な「ごんぎつね」も収録している本ですが、筆者のお薦めはこちら。心のこぼれが溶かされていくようなラストはやはりいつまでも記憶に残るものです。絵本ではなく文章で読むとまた違った味わいがあるかもしれません。

**「有頂天家族」**  
森見登美彦著  
幻冬舎  
BFモ  
篠崎ほか所蔵



京都・祇園に棲む狸の四兄弟。彼らを取り囲むのは師匠である老犬狗に、狸鍋を愛する人間たちなど、クセの強い面々ばかり。狸界での権力争いまで勃発し、兄弟の周りはいつでも大騒ぎです。兄弟の奮闘ぶりをお楽しみください。

## スタッフのセレクション！ 第24回

### 「ジーンとともに」(「心ヲナクセテヲ残セ」所収)

加藤幸子著 角川書店 BFカ 篠崎ほか所蔵

今年は、燕はもう見かけましたか？ 季節と共に渡ってきて巣を作り、卵を生み、雛を育て、成長した雛はまた季節と共に去ってゆきます。それは人の暮らしたとは違ふ理で、永く繰り返されてきた生の営み。この短編集に納められた「ジーンとともに」は、そんな渡り鳥の一生を、鳥になって生き直すように味わうことができる、不思議な小説です。

どこか北の海岸の草原で、卵の中で目覚めた一羽の雌の雛が、殻を破り、餌を食べ、南の<島>へ渡り、交尾をし、卵を産んで息絶えるまでを、鳥自らが語ります。語り手の鳥は「ニジドリ」という種で、燕とは違い子育ての習慣はないようです。一羽きりで目覚めた主人公を導くのは、卵の中から傍らに在るジーンと名乗る声。gene、遺伝子です。

ジーンの的確な指示と、四代ほど前まで遡れる母鳥たちの記憶に従うことは、生存に有利に働きます。しかしただ従うだけではなく、鳥の生の最大の目的、産卵において、主人公は自らの経験に基づいた独自の判断も行います。それは、作中では「二本足」と呼ばれる人間の営みとも関わりのあることで……。

毎日の生活は、当たり前ですが人間を中心として組み立てられています。この小説を読むと、毎日の生活の下に静かに在る、季節と共に渡られてくる燕ともつながるような、生きものとしての生に触れるられるかもしれません。そしてそれは、日々の生活にとって、決して無意味なことではないように思うのです。

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

**「白鷹伝」**  
山本兼一著  
祥伝社  
Fマ  
篠崎ほか所蔵



信長に仕え、その功績から鷹の字を名前に使うことが許され、後に秀吉、家康にも仕えた実在の鷹匠・小林家鷹。伝説の白鷹を介して、家鷹と信長天下人との交流を描く。鷹匠の仕事が詳細に書かれており、その奥深さを知ることができます。

**「ペンギンの憂鬱」**  
アンドレイ・クルコフ著  
新潮社  
983ク  
篠崎ほか所蔵



「ミーシャ」は主人公のペット。やばい仕事に手を染めるご主人の孤独な心に共鳴する、憂鬱症のペンギンです。舞台はソビエト連邦崩壊後のウクライナ・キエフ。シュールな展開と意外な結末にぼう然。果して「ミーシャ」の運命や如何に。